

## I 学校の概要

### (1) 学校及び家庭学科の特色 (資料1)

鳥取県西部に位置する創立87周年の本校は、商業学科・家庭学科からなる専門高校である。家庭学科の歴史は浅く、平成13年に米子南商業高校に米子西高校生活文化科・淀江産業技術高等学校が統合し米子南高等学校家庭学科生活文化科環境文化コース(定員18名)・調理コース(定員20名)となった。環境文化コースは生活に関する基礎的な知識・技術を身につけ、環境に配慮した社会生活や消費活動ができる地域のリーダーの育成、調理コースは調理のプロとしての豊かな感性を養い、食文化の発展に貢献できる人材の育成を目指している。小・中学校との交流や中海清掃、地域イベントでの販売活動など地域と連携しながら様々な活動を積極的に展開するとともに、少人数指導の利点を活かし商品開発や各種コンテストにも取り組み実績をあげている。



小・中学校との交流や中海清掃、地域イベントでの販売活動など地域と連携しながら様々な活動を積極的に展開するとともに、少人数指導の利点を活かし商品開発や各種コンテストにも取り組み実績をあげている。

### (2) 生徒数(平成26年5月1日現在)

学科名		1年	2年	3年	計
商業学科ビジネス情報科		114	113	117	344 (男25女108)
家庭学科	環境文化コース	18	18	17	53 (男 0女 53)
生活文化科	調理コース	20	18	20	58 (男16女 42)

## II 研究主題等

### (1) 研究主題

専門教科「家庭」における地域の活性化を目指した商品化の取組の指導と効果的評価の工夫

### (2) 研究のキーワード

商品開発, 1枚ポートフォリオ, ルーブリック評価表, 学習目標の可視化, アクティブラーニング

### (3) 研究主題設定の理由

生活文化科環境文化コースでは、3年次に地域の活性化を目指した地域食材の研究を『課題研究』として行ってきた。平成19年度の研究では「白ネギクッキー」の商品化が実現し、平成20年鳥取市で開催された全国高等学校家庭クラブ研究発表大会での販売を皮切りに、平成21年「ねぎみっちゃん(地元の白ネギを使ったおかず味噌)」、平成22年「ねぎどら(白ネギ入りどら焼き)」を商品化し、これらの取組を平成22年度全国高等学校家庭クラブ研究発表大会で発表したところ、文部科学大臣賞を受賞することができた。その後も平成23年「あじみっちゃん」、平成24年「しいたけみっちゃん(しいたけ入りおかず味噌)」「にんじんシフォンケーキ」、平成25年「とりみっちゃん(鶏肉入りおかず味噌)」と順調に商品化され、完成した商品は家庭クラブがイベントで販売するだけでなく、地元のスーパー等でも販売されている。



H20 白ネギクッキー



H21 ねぎみっちゃん



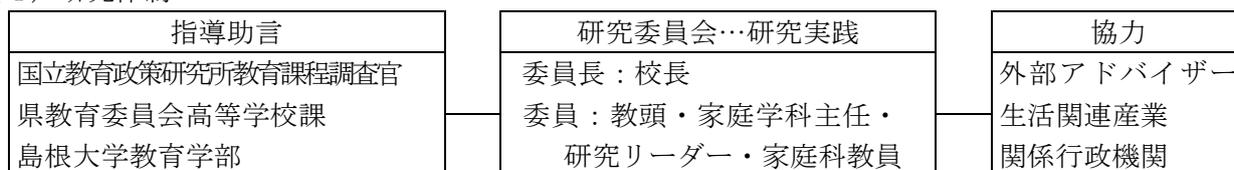
H24 にんじんシフォンケーキ

販売については家庭クラブ活動として定着し、上級生が下級生に販売のノウハウを指導することができているが、商品開発の取組は3年次の『課題研究』で主に行っており、学年を超えた継続したものとなっていない。また、これまでの商品開発は試作品作成にばかり力点を置き、課題設定→仮説→検証→統合・提案という商品開発までの流れを軽視し、消費者のニーズやターゲットなどは後まわしであった。さらに、商品化には商品を完成させるだけでなく、商品名やキャッチコピーなど商品売るための手立てを考えなければならないが、生徒たちは取組の全体像が見えないまま教員の指示で研究を続けていた。

新学習指導要領の『生活産業基礎』では、「生活の変化に対応した商品・サービスの提供」として、ア「消費者ニーズの把握」イ「商品・サービスの開発及び販売・提供」ウ「関連法規」が指導内容として加えられている。しかし、本校ではそれらを扱う教材開発が不十分で、どのような教材を扱うのか、評価はどうするのかは個別の指導者に委ねられていた。そこで、商品開発のプロセスを学び、商品化の流れを理解させる新しい教材を研究し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた「指導と評価の一体化」について研究を深めることにした。

『課題研究』は例年「被服」分野・「保育・環境」分野・「食物」分野に分かれ、3人の教員で担当している。生徒がそれぞれ課題を設定し研究をしているが、個別の目標設定を基にし担当教員が指導していたこともあり、それぞれの担当以外の取組状況がわからず、評価もそれぞれが別々に行っていた。そこで、生徒の目標や取組状況を全体で把握し、生徒が相互に刺激し合いながら研究を進める必要があると考え、『課題研究』における「指導と評価の一体化」に取り組んだ。

#### (4) 研究体制



校内で研究委員会を立ち上げ、週時程内に研究委員会の時間を設け、新学習指導要領の観点別評価や指導と評価の一体化とは何かを協議した。他にも5月に、平成25年度教育課程研究指定を受け指導方法および評価方法の工夫について研究をされた福岡県立折尾高校、そのコンサルタントをされている「はかた本舗」を訪問し、研究の進め方や外部講師の関わりについて助言を受けた。さらに、産業能率大学主催の「アクティブラーニング実践セミナー」に参加したり、鳥取県教育委員会主催の「ジグソー法」に関する研修を受けたりと、協調学習について理解を深めた。12月には今年度本校同様の研究指定を受けている岐阜県立岐阜城北高等学校の研究授業に参加させていただき、『ファッション造形基礎』における指導と評価の一体化の取組を学んだ。

### Ⅲ 研究の内容

#### (1) 研究内容

1年次の『生活産業基礎』において商品開発のプロセスを学習し、企画力・問題解決能力・プレゼンテーション力の育成を目指す。2年次での「フードデザイン」「ファッション造形基礎」「子どもの発達と保育」「生活環境」での学習を踏まえ、3年次の『課題研究』のテーマ決定及び目標設定を行う。3年次の『課題研究』では仮説→検証→統合・提案といった商品開発まで流れを重視し、地元事業所と協働した新商品・イベントの企画をすすめ、3年間を見通した教材開発や評価方法の研究を深める。生徒の学習意欲を高めるため、積極的に地域と連携し、社会人講師や地域のイベントの活用を図る。一方、学習効果を測るため、生徒による「目標達成度評価」及び「ループリック評価」による生徒自己評価・教員評価を行い、それを基に授業改革を図り、生徒の学習意欲を引き出すと共に「指導と評価の一体化」を円滑に進める。

(2) 研究計画

実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等				
4～8月	<p>&lt;調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画（知識・技術の定着・向上のための校3年間を見通した段階的指導の実施）の確認</li> <li>・本校における商品開発の経緯確認及びこれまでの開発商品と指導方法の検証</li> <li>・指導方法と評価の研究（評価研修及び評価方法と評価規準の検討）</li> <li>・過去の研究指定校の実践分析及び先進校視察（5月）</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;">『生活産業基礎』における指導方法の工夫と実践</td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding-left: 5px;">『課題研究』における指導方法の工夫と実践</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価規準作成</li> <li>・生徒アンケート調査</li> <li>・授業の振り返りシートを活用した観点別評価の工夫</li> <li>・1学期期末考査による理解状況の把握</li> </ul> </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価基準作成</li> <li>・生徒による到達目標作成指導（ループリック評価表）</li> <li>・ワークシートの工夫</li> <li>・評価シート作成</li> <li>・社会人講師による消費者ニーズの把握に関する指導</li> </ul> </td> </tr> </table>	『生活産業基礎』における指導方法の工夫と実践	『課題研究』における指導方法の工夫と実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価規準作成</li> <li>・生徒アンケート調査</li> <li>・授業の振り返りシートを活用した観点別評価の工夫</li> <li>・1学期期末考査による理解状況の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価基準作成</li> <li>・生徒による到達目標作成指導（ループリック評価表）</li> <li>・ワークシートの工夫</li> <li>・評価シート作成</li> <li>・社会人講師による消費者ニーズの把握に関する指導</li> </ul>	<p>2ヶ年にわたる研究の基礎づくり 生徒の実態把握</p>
『生活産業基礎』における指導方法の工夫と実践	『課題研究』における指導方法の工夫と実践					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価規準作成</li> <li>・生徒アンケート調査</li> <li>・授業の振り返りシートを活用した観点別評価の工夫</li> <li>・1学期期末考査による理解状況の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価基準作成</li> <li>・生徒による到達目標作成指導（ループリック評価表）</li> <li>・ワークシートの工夫</li> <li>・評価シート作成</li> <li>・社会人講師による消費者ニーズの把握に関する指導</li> </ul>					
5～12月	<p>&lt;開発期間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法の研究（教材の作成）</li> <li>・指導と評価の一体化による授業改善の研究</li> <li>・観点別評価の入力シートの作成</li> <li>・校内での評価法研修会の実施</li> <li>・公開授業・研究協議（12月）</li> <li>・『課題研究』校内発表会</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケットリサーチ（夏期休業中の課題として）による消費者ニーズの把握</li> <li>・商品企画の実践のためのワークシートの工夫</li> <li>・商品企画の発表と評価</li> <li>・2学期期末考査による理解状況の把握</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding-left: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による到達目標の見直し指導</li> <li>・新商品の企画および試作</li> <li>・社会人講師による地元企業とのマッチング検討</li> <li>・地元企業へのプレゼンテーション</li> <li>・地域イベントでの販売および市場調査による改善</li> <li>・商業科との連携</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケットリサーチ（夏期休業中の課題として）による消費者ニーズの把握</li> <li>・商品企画の実践のためのワークシートの工夫</li> <li>・商品企画の発表と評価</li> <li>・2学期期末考査による理解状況の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による到達目標の見直し指導</li> <li>・新商品の企画および試作</li> <li>・社会人講師による地元企業とのマッチング検討</li> <li>・地元企業へのプレゼンテーション</li> <li>・地域イベントでの販売および市場調査による改善</li> <li>・商業科との連携</li> </ul>	<p>実践研究を重ねることにより、データの蓄積を図り、より普遍性のある指導法・評価の確立</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケットリサーチ（夏期休業中の課題として）による消費者ニーズの把握</li> <li>・商品企画の実践のためのワークシートの工夫</li> <li>・商品企画の発表と評価</li> <li>・2学期期末考査による理解状況の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による到達目標の見直し指導</li> <li>・新商品の企画および試作</li> <li>・社会人講師による地元企業とのマッチング検討</li> <li>・地元企業へのプレゼンテーション</li> <li>・地域イベントでの販売および市場調査による改善</li> <li>・商業科との連携</li> </ul>					
1～3月	<p>&lt;改善期間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研究や課題研究の発表等の実施と教科調査官等による指導及びその結果を踏まえた指導と評価の改善</li> <li>・初年度の研究成果の検証と次年度指導計画の作成</li> <li>・連絡協議会での中間報告</li> <li>・研究成果小冊子作成とその頒布</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒事後学習アンケート調査の実施及び分析</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; padding-left: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による到達目標の評価</li> <li>・生徒事後学習アンケート調査の実施および分析</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒事後学習アンケート調査の実施及び分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による到達目標の評価</li> <li>・生徒事後学習アンケート調査の実施および分析</li> </ul>	<p>今年度のまとめと来年度（完成年度）に向けた課題の整理</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒事後学習アンケート調査の実施及び分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による到達目標の評価</li> <li>・生徒事後学習アンケート調査の実施および分析</li> </ul>					

	準の見直し・作成 ・指導計画および観点別評価基準の見直し・作成 < 2年 > ・『課題研究』テーマ決定指導	
2年目 4～9月	<実践発展期間> ・改良・改善商品を全国へ販売することによる研究の推進(県外での実践等) ・指導方法と評価の工夫(新教材の開発等)	指導と評価の一体化の定着
10～12月	<発信期間> ・研究授業等の実施による研究成果の共有化と新教材の開発 ・教科調査官等による指導	教員の指導力向上
1～3月	<整理期間> ・2年間の研究成果のまとめと評価 ・連絡協議会での発表 ・成果冊子作成	

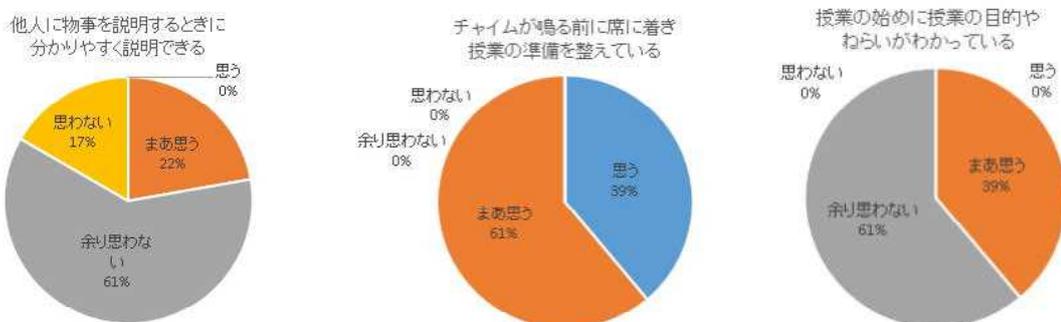
(3) 具体的取組

① 『生活産業基礎』 「生活の変化の対応した商品・サービスの提供」における実践(資料2)

この単元では、班で協力してオリジナルスープを開発する商品企画の疑似体験を通して、企画をまとめ、発表し、相互評価する活動により「思考力・判断力・表現力」を高め合うことを目指した。一班3人の計6班に分かれ、「スープ専門店ですす月替わりのスープを社長に提案する」という課題を設定し、ディスカッションやプレゼンテーションなど生徒の能動的な学習(アクティブ・ラーニング)を取り入れ、生徒相互の言語活動の充実を図った。思考のプロセスを可視化するためにワークシートを作成し、それをポートフォリオとしてファイリングすることで生徒自身が学びを振り返ることができるようにした。

a 授業アンケート(10月)

単元の始めに授業アンケートを行った。生徒たちは「他人に物事を分かりやすく説明する」ことに自信がなく、「私には良いところがたくさんあると思う」生徒も少なかった。授業は真面目に受けているが、予習・復習の習慣がなく、授業の目的やねらいも生徒に伝わっていないことが分かった。そこで、授業の目的を事前に生徒に提示するために「1枚ポートフォリオ」を活用することにした。



b 単元目標及び指導と計画(資料3)

<単元目標>

- (1) 消費者ニーズの把握、商品・サービスの開発及び販売・提供などについて関心を持ち、主体的に学習する態度を育成する。
- (2) 商品・サービスの提供について疑似体験し、企画力・マネジメント能力を育成する。

<単元の評価規準>

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
消費者のニーズの把握、商品・サービスの開発及び販売・提供などについて関心を持ち、主体的に学習活動に取り組んでいる。学んだことを次年度の学習に活かそうとしている。	オリジナルスープを考えることで、消費者ニーズに対応した商品・サービスの提供について、課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現している。	オリジナルスープのコンセプトや特徴を検討するための情報を収集・整理することができる。	消費者のニーズの把握、商品・サービスの開発及び販売・提供、関連法規などについての知識を身に付けている。

<単元の指導と評価の計画(全15時間)>

内容・学習活動	時間	評価の観点				評価方法
		関	思	技	知	
商品開発について	1	○	○			ポートフォリオ
商品開発の流れと開発のポイント(社会人講師)	1				○	定期考査
商品の分析	1	○	○			ワークシート
商品コンセプト話し合い・レシピの考案	3	○	○			ワークシート
調理実習・試食・他班の評価	2	○	○			ワークシート
コンセプトの見直し・原価計算・関連法規	1		○		○	ワークシート・定期考査
発表資料作成・改善・発表練習	4	○		○		発表資料・実習態度
発表・まとめ	2	○	○			発表態度・評価表・ポートフォリオ

c 1枚ポートフォリオ(資料4)

「1枚ポートフォリオ」とは、堀 哲夫氏が開発したもので、学習のねらいに対する学習の成果を、生徒が1枚のシートの中に学習前・中・後の学習履歴として記録し、それを自己評価させるものである。学習による変容を生徒自身が可視化し自覚することで、学ぶ意義を感じることが期待できるとともに、教師が単元のねらいが達成できたかを評価する際に活用する。これを用い、時間ごとの学習内容と目標を明確にした学習計画を生徒に提示し、生徒が見通しを持って授業に取り組めるようにした。毎時の目標と総合評価の観点も明示することにより、生徒自らが課題意識をもつとともに、学びを自覚することで主体的な学びを促すことができるのではないかと考えた。

総合評価				
単元で付けたい力				
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解	
消費者のニーズの把握、商品・サービスの開発及び販売・提供などについて関心を持ち、主体的に学習活動に取り組んだ。学んだことを次年度以降の学習に活かそうとしている。	オリジナルスープを考えることで、消費者ニーズに対応した商品・サービスの提供について、課題を見だし、その解決を目指して考え、適切に判断し、まとめ発表した。	オリジナルスープのコンセプトや特徴を検討するための資料をまとめることができた。	消費者のニーズの把握、商品・サービスの開発及び販売・提供、関連法規などについての知識を身に付けた。	
A B C	A B C	A B C	A B C	

「オリジナルスープを作る」学習計画				
日付	内容	目標	自己評価	コメント
10/22	商品企画にチャレンジ	①今後の学習の流れを把握する	A B C	
		②作りたい商品と特徴を考える	A B C	
10/23	商品開発の流れと開発のポイント(社会人講師)	①商品コンセプトのポイントを理解する	A B C	
10/29	商品の分析(売れている商品のいいところを探そう)	②実際の商品を分析する ①職員と積極的に話し合う ②班員の意見をまとめて発表する	A B C A B C A B C	

単元の学習計画及び自己評価

学習前に一人で考えた部分	チームで協力し考えた部分
学習後の気づき	

学習による変容を可視化

**d ワークシートの工夫(資料5)**

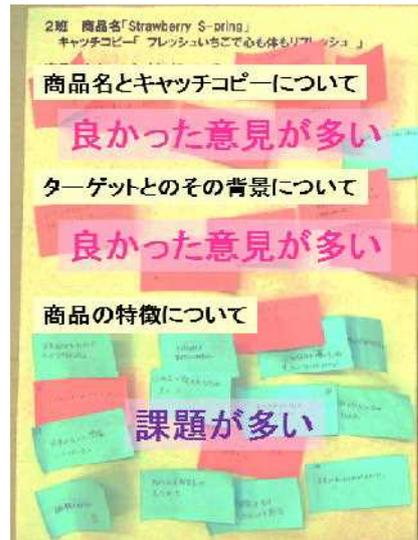
授業では、考えを記述させるワークシートを作成し、まず自分で考える、次にチームで意見を発表する、新たに意見を構築しまとめるといったアクティブラーニングを取り入れた。このように話し合いや考えをまとめる活動を通して、表現力を伸ばすなど言語活動が充実することを目指した。なお商品分析の教材には「おりこうカレー」を使用した。同じ高校生が商品力の高いものを開発していることを知らせることは生徒の関心・意欲の向上につながった。



ワークシートの例 商品の分析

**e 相互評価及び第三者評価の活用**

生徒の商品企画のプレゼンテーションでは、生徒が他班の評価し、良かったことをピンクの付箋、問題がある部分を水色の付箋で貼らせた。その結果、他班の優れていたところや自分たちの課題が「見える化」でき、商品開発にはどのようなことが必要か考えることができた。さらに3年『課題研究』における商品開発のコンサルタントの方に、生徒の企画のプレゼンテーションを評価してもらうことで、自己の評価の妥当性についても考えさせる機会を設定した。



付箋による他班への評価

**f 3年『課題研究』における商品開発との連携**

3年『課題研究』における商品開発のニュース映像等を生徒に視聴させ、目標とする姿をイメージさせるとともに、商品開発に必要な力を育てたいと考えた。

**g 定期考査による観点別の評価**

定期考査では、「知識・理解」を問う問題(問1~4)の他に、「思考・判断・表現」を評価する問題(問5)を出題し、単元の習熟度を把握した。「知識・理解」を問う問題においても、一問一答ではなく問題の前後を読んで答えさせる設問を取り入れ、思考力の向上を図った。「知識・理解」を問う問題と「思考・判断・表現」を問う問題を別々に採点后、平均点を算出し、個別の課題を生徒に把握させた。また「理解」が不足していた問題は解答指導の際に丁寧な解説をするようにした。

2学期期末考査より

**【10】商品・サービスの開発に関する文章を読み、問いに答えなさい。(答え 正答率%)**

商品・サービスの開発には、消費者の(ニーズ 83%)を的確に把握し、消費者が欲しいと感じる(=ウォンツ 78%)商品を企画することが必要である。作りたいアイデアが固まったら、誰に・何を・どのように販売していくかといった商品の(コンセプト 61%)を検討し、商品を実体化していく。その際、市場を細分化し、(ターゲット 44%)を決め、競合商品との差別を図る。商品化にあたっては、他の商品の模倣でないか、商品名やロゴマークはすでに特許庁に(商標 11%)登録されていないか確認することも大切である。

問1 空欄に適語を入れなさい。

問2 購買行動“Action”を起こすまでの消費者の心理的プロセスを何というか答えなさい。また、Attention から Action に至るまでの間に入る3つの段階を日本語で答えなさい。

(アイドマ 78%) (気になる 78%) (欲しくなる 72%) (記憶する 72%)

問3 野菜スープ 400 円 の材料費は下記の通りである。原価率を答えなさい。  
スープの素 20 円 野菜 100 円 (30% 44%)

問4 商品の価格に含まれるものを原材料費以外に3つ答えなさい。  
(利益, 人件費, 経費等 正解回答数の平均 2.3 個)

問5 「米子」で売れそうなパンはどんなものか、理由も含めて答えなさい。

(商人の町・新しいもの好き・車社会・共働きなど米子の特徴と具体的な提案がリンクしているか 正解回答数の平均 2.3 個)

## h 研究授業（資料9）

12月5日には、文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 望月昌代様、島根大学教育学部 多々納道子教授を始め、校外から約30名の先生方に来校いただき、研究授業及び研究協議を行った。授業では、「企業に提案するスープ」を発表し相互評価する様子を見ていただいた後、商品を企画するために必要な力を考えまとめさせた。生徒たちは、普段とは違う雰囲気緊張しながらも、活発に班員と意見交換をしていた。参加された先生方は、生徒が意欲的に学ぶ姿に感心されていた。



## ②『課題研究』における実践

本校はコース別に『課題研究』の授業を行っており、環境文化コースの生徒がファッション系・保育系・食物系の3分野に分かれ、例年教員3名がそれぞれの分野に分かれ、2～3チームを担当し指導している。12月には生活文化科全員を対象に発表会を行い、学年末に集録にまとめ関係機関に配布し理解を図っている。1年間の取組であるため初めの目標設定がとても重要で、また、複数の教員がそれぞれの分野を担当するため総合的な評価が難しかったのが現状である。そこで、「ルーブリック評価表」を用い、生徒に「到達目標」を作成させることにより学習意欲を喚起させるとともに、生徒一人ひとりの目標に応じた指導を行うことを目指した。

### a ルーブリック評価表（資料6）

学習を始めるに当たり、まずルーブリック評価表を用いた「到達目標」を作成させた。「ルーブリック」とは生徒の学習到達状況を評価するための、評価基準表のことである。評価表の項目は、「関心・意欲」「PDCA」「技能」「貢献・実績」とした。『課題研究』は、調査研究・被服製作・学校家庭クラブ活動など様々な取組が考えられるが、課題解決のための「P計画・D実行・C評価・A改善」の流れを意識させるとともに、自己満足な研究に陥らないよう、個別の研究が学校・地域に与える影響についても考えさせることにした。これを生徒に作成させることで、自らの目標を「可視化」することをねらった。作成には「思考力・判断力・表現力」が必要になるが、担当教員が指導することにより、生徒・教員が研究を進めるにあたって到達目標を共有、自覚することを通して学習意欲を喚起させることができた。

学期を通して評価をする際には、生徒に「到達目標」についての自己評価をさせ、自分がどの段階にいるのか自らの研究を振り返らせた。さらに生徒の自己評価を踏まえ、担当教員がそれぞれの項目について具体的に何が達成できていないのか、何を改善すれば目標を達成できるかを記入した評価表を作成し、生徒が振り返りを行いやすくするようにした。この評価を複数の担当教員で確認することにより、担当以外の生徒の動きも把握することができ、客観的な評価ができた。この「見える(可視化)」評価により、生徒・教員が目標と課題を共有することができ、生徒の学習意欲を継続させることができた。

テーマ	みんなの取り組みを応援して	氏名	
生徒による自己評価			
自主性・積極性・リーダーシップ	PDCA	技能・知識・理解	
貢献・実績			
1	地域のイベントに参加し、商品の販売、説明することができた。地域の力や各機関に関わることで、パワーポイント、原簿を作成できた。率先して研究をし、チラシの製作なども行った。	得意も改善し、納得のいく商品ができた。今後の研究を利用し、商品開発することができた。毎週、新しい商品を開発することができた。チラシなども用意しながら、販路の拡大にも取り組んだ。一学期の取組から、事前の準備などもできた。	研究を進め、商品開発ができ、研究材料の理解、知識がより身についた。また自分たちの得意な分野に、地域に貢献することができた。地域のイベントも積極的に取り組むようになった。質問されたことを丁寧に答えるようになった。得意の知識や技術を身につけた。販売の方法なども考えた。
2	自分から率先して進んで取り組むことができた。	季節と結果が自分の納得いくものになった。	自分が作った商品を自分と説明できる。(得意を質問されても答えられる)
3	地域で試食してもらいデータをとり(6～8月)	改善を何度もする。	業者さんが納得するような料理ができた。みんなの意見を説明できる。
4	企業に訪問(3～4月)進んでアイデアを出した。校内で試食してもらいデータをとる(6～8月)	計画どおりに進めた。	みんなの取り組みを応援できた。業者さんに提供できる商品ができた。
5	先生に頼ってばかり。計画を立てるのがおそい。原簿が不十分。	計画を立てるのがおそい。みんなの取り組みを応援しようと思わない。	原簿を作るだけになってしまっている。何も成果がない。

学期末の生徒による自己評価

テーマ	みんなの取り組みを応援して	氏名
項目別評価		
自主性・積極性・リーダーシップ	PDCA	技能・知識・理解
貢献・実績		
1	自分から率先して進んで取り組むことができた。	季節と結果が自分の納得いくものになった。
2	地域で試食してもらいデータをとり(6～8月)	改善を何度もする。
3	企業に訪問(3～4月)進んでアイデアを出した。校内で試食してもらいデータをとる(6～8月)	計画どおりに進めた。
4	先生に頼ってばかり。計画を立てるのがおそい。原簿が不十分。	計画を立てるのがおそい。みんなの取り組みを応援しようと思わない。

学期末の教員による項目別の文章による評価

## b 学習記録表

『課題研究』では個別の学習状況を把握するため、「学習記録表」を毎時提出させている。今年度は「到達目標」の自己評価に結び付けるために、自己評価の欄を細分化し評価させることにした。これにより、生徒は自らの課題を把握するとともに、学期ごとの自身が設定した目標に対して学期ごとに振り返りを行う際の資料にすることができた。また教員も、毎時、項目別に評価を蓄積できたことにより、総合的な評価を行うとともに指導に反映させることができた。

自己評価項目	1. 学習の準備が良かった (A・B・C)	感想
	2. 熱心に取り組んだ (A・B・C)	
	3. 計画通りに進んでいる (A・B・C)	
	4. 問題解決に努力した (A・B・C)	
	5. 独自の発想があった (A・B・C)	
	6. 興味関心が増した (A・B・C)	
	7. 総合評価 (A・B・C)	
次回計画		

以前の学習記録表

P D C A	1. 積極的に取り組めた	A・B・C	できたこと  できなかったこと
	2. 本時の計画通りにできた	A・B・C	
	3. 目標が達成できた	A・B・C	
	4. 次の課題を明確にした	A・B・C	
	5. 次の目標・計画を立てることができた	A・B・C	
技術 知識	6. 技術を習得した・技能が向上した	A・B・C	
	7. 知識が増えた・理解が深まった	A・B・C	
次回の目標			
次回の計画 ・準備物			

今回作成した学習記録表

## c 社会人講師の活用

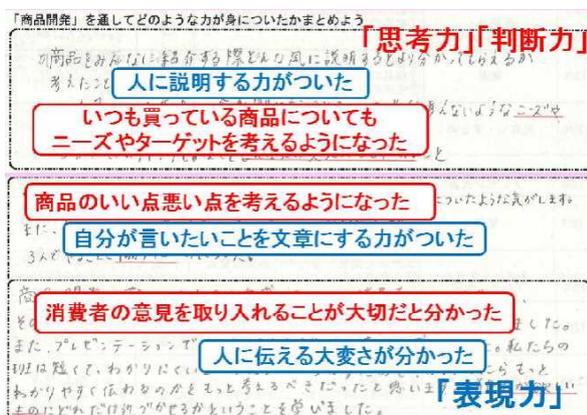
『課題研究』ではこれまで様々な商品を開発してきた。生徒がレシピを作成し、それを事業所に製造販売してもらう方式で、「おかず味噌」のシリーズや「白ネギクッキー」、「にんじんシフォンケーキ」などが継続して販売されている。これまで様々な事業所に商品化をしていただき関係を作ってきたが、担当者が代わっても継続して商品化できるシステムを作りたいと考えていた。そこで、地域の食に関する様々な事業所と関わりのあるコンサルタントを招聘し、商品化へのアドバイスや開発商品と事業所のマッチングを依頼し、学校と地域を結ぶ役割を担ってもらった。

## IV 研究の成果と課題

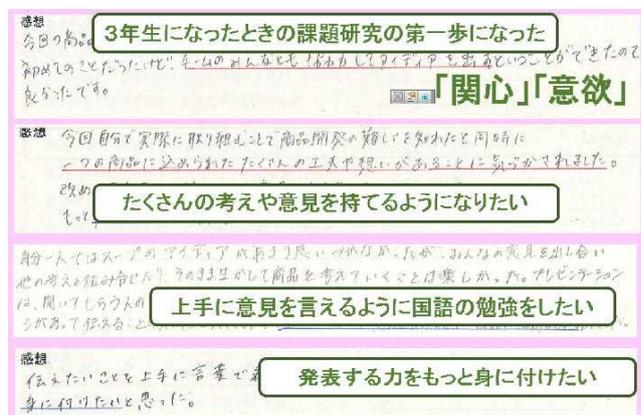
### (1) 成果

#### ① 『生活産業基礎』 「生活の変化の対応した商品・サービスの提供」における成果 (資料7・8)

「指導と評価の一体化」を図るため、「生活の変化の対応した商品・サービスの提供」の教材として商品開発を疑似体験する取組を行った。「1枚ポートフォリオ」を利用し、学習目標および評価を見える化を図り、それを生徒と共有することで、企画力・問題解決能力・プレゼンテーション力の必要性を生徒たちは実感することができた。ワークシートを工夫し、意見をまとめ発表する活動を様々な場面で行ったことで、当初課題であった説明力に自信がついたと答えた生徒が多かった。



学習後の気づき (思考力・判断力・表現力)

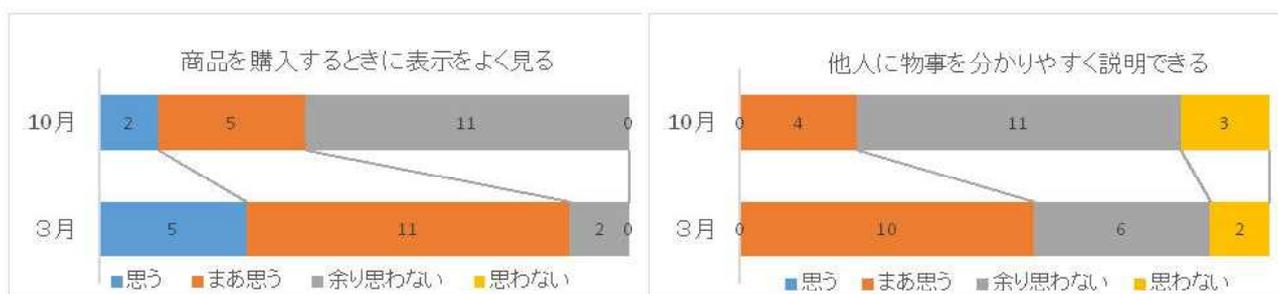


学習後の気づき (関心・意欲)

また1年次に商品開発のプロセスを疑似体験することで、3年次『課題研究』で商品開発を実践する

際には、消費者の立場に立った商品の企画が期待できる。さらに、1年生に3年生の地域で活躍する姿を見せることで、2年後がイメージでき、学習の関心・意欲が高まった。

3月に1年間の振り返りとして10月同様のアンケートを実施した。生徒の変容が最も見られた項目が、「商品を購入するときに商品についての表示を必ず見る」で、「思う」を4点・「思わない」を1点とし、回答数をかけて平均点を算出したところ、0.7ポイント上昇した。「他人に物事を説明するときに分かりやすく説明できる」についても、0.4ポイント向上した。自由記述で「1年間の授業を通して自分が成長したと思うこと」を書かせたところ、「中学校の時は自分の意見を主張できなかったが、しっかり自分の考えや意見を主張して、話し合いに参加できるようになった」「人の話を聞きながらメモをとったり、それについて自分の意見を書くなど、自分の思いを文章にする力がついた」などの回答があり、生徒たちは思考力・判断力・表現力が身についたと実感していることが読み取れる。



## ②『課題研究』における成果

『課題研究』ではルーブリック評価表により目標を明確にし、自己の課題を「可視化」し認識させることで、「言語活動の充実」を図り、学習意欲を向上させることができた。

一方、コンサルタントに事業所との仲介をしてもらうことで新たな事業所との関係ができ、生徒は自らの商品開発が直接社会とつながっていることを意識し、高い目標を持って課題研究に取り組むことができた。協力事業所には何度も来校していただき、生徒が作成したレシピを基に互いに試行錯誤し、商品力の高いものを短期間で開発することができた。例年9月の学校祭での商品化を目指していたが、6月に第1弾、10月に第2弾の商品化が実現し、地域のイベントや店舗で生徒自らが開発した商品を販売することができた（3月までで13回）。



6月 新作スイーツ3種完成



10月 カレーパン完成

また、高校生が地域のイベント等で販売することは、イベントが活気づき、集客にもつながるため主催者に大変喜ばれている。生徒の目標である地域を盛り上げることにつながり、地域の方の励ましや賞賛は、生徒の自己有用感や自尊感情を高めることにつながった。

さらに、商品化や販売活動を多くのメディアで報道（3月までで新聞10回・テレビ11回）してもらうことで、地域を盛り上げたいという思いで頑張る生徒の姿を多くの方に見てもらえる機会が増え、本校家庭学科の知名度が上がり本校3年生に対する就職求人数が増加した。

2月には県からの支援を受け、初めて大阪市にあるあべのハルカス近鉄本店で販売を行った。高校生が地域の魅力を発信するために開発した商品が、鳥取と関西を結びつけ、地域活性化につながることを期待される。



大阪での販売のポスター

また、食分野以外のチームもそれぞれ意欲的に研究に取り組んだ。それは、生徒一人ひとりが2年生の段階で『課題研究』の各自の目標をしっかりと立てたこと、ルーブリック評価の項目に「実績・貢献」を加えたことにより、自分たちの学んだことがどんな地域貢献につながるかしっかりと考え取り組むことができたからだと考える。



2月 トマトキッシュ完成

## (2) 課題

『生活産業基礎』では生徒の状況や学習環境（情報処理室の利用等）などに応じて、扱う題材や学習内容の工夫と精選が必要である。今年度の生徒の取組を分析し、特に、ポートフォリオやワークシートの工夫・改善を図りたい。

『課題研究』で作成させたルーブリック評価表は、生徒自らが学習状況に気づき、自己の課題を理解し、後の学びに活かすといった「指導と評価の一体化」のモデルとして有効だと考える。しかしルーブリック評価表の作成は、題材設定の理由や目標が明確でなければ作成することができず、1年生から、目標を設定し実行しそれを評価し改善するといったPDCAサイクルを『生活産業基礎』を始め様々な場面で取り上げ、3年間を見通し生徒を育てていくこと、2年次のテーマ設定時に複数の教員で生徒に適切なアドバイスをし、関心・意欲を高める工夫が必要である。

また、これらの取組による生徒の変容や地域からの評価をどのように検証していくか、研究が必要である。



## (3) 研究2年目へ向けての取組

本年度の取組における課題を整理し、次年度は評価が思わしくなかった生徒への教員の働きかけや手立てについて、指導を多面的・多角的に分析し、生徒の学習意欲を高めるための工夫・改善を試みたい。